

## 神奈川県文化芸術振興審議会意見、有識者ヒアリング及び県民意見聴取

### 1 神奈川県文化芸術振興審議会での意見

- (1) 第1ホールは多目的でよいが、第2ホールは800～1,000席だと音楽堂と被る。室内楽の専用ホールがなく、取り合いになっている状況がある。800席以下の音楽専用ホールを作ってほしいと要望させていただく。
- (2) 新しい県民ホールの個性は何か。以前の審議会で、新しいオペラ、新しいバレエとはどういうものか聞いたときに、これから検討していくというお答えだった。オペラには詳しくないが、舞台や音楽など色々なものが味わえるものだと思っているので、ぜひ新しいオペラとは何かを語ってほしい。
- (3) 県の文化芸術振興計画があつて、県民ホールがあるので、計画の体系と関連づけてほしい。
- (4) 骨子案をみると、施設整備に偏ってみえて、箱物をつくるように捉えられてしまう。
- (5) 多目的で、なんでもアリとならないようにしてほしい。(計画に沿ったものにしてほしいという意見。)

### 2 有識者ヒアリング

- (1) 神奈川県合唱連盟ヒアリング（令和7年8月6日メール回答）
  - ア オペラ公演の役割が重要。1987年10月ベルリン・ドイツ・オペラの引っ越し公演によるワグナー作曲の「ニーベルングの指環」日本全曲初演が、日本のオペラ界において、特筆に値する。
  - イ その他、次の公演は、全国でも珍しいオペラの専門家の職員と県民とともに築き上げた、日本の音楽界の歴史に残る、素晴らしい成果だと思う。
    - ・ 2002年10月、三善晃作曲のオペラ支倉常長「遠い帆」
    - ・ びわ湖ホール・神奈川県民ホール共同制作オペラによる県民合唱団員とともに創り上げるスペクタクルな舞台
      - ▶ 2010年3月、ジャコモ・プッチーニ作曲の「ラ・ボエーム」
      - ▶ 2011年3月、ジュゼッペ・ヴェルディ作曲の「アイーダ」＜震災の影響で中止＞
    - ・ 2015年12月、黛敏郎作曲、三島由紀夫原作の「金閣寺」
  - ウ オーケストラと公募による県民合唱団の公演活動（周年記念事業等）は、神奈川県音楽史に残る、素晴らしい取組だった。
    - ・ 2005年1月、團伊玖磨作曲の合唱とオーケストラのための組曲「筑紫讃歌」
    - ・ 2007年3月、ベンジャミン・ブリテン作曲の「戦争レクイエム」
    - ・ 2010年6月、カール・オルフ作曲の「カルミナ・ブラーナ」

- ・ 2014年10月、マーラー作曲の交響曲第8番「千人の交響曲」
- エ 上記のように、定期的に県民合唱団を組織し公演を続けてきたことは、神奈川の合唱文化の向上に、深く寄与されたと思う。
- オ バレエ公演も、日本の舞台芸術界に大きな影響を与えてきた。
- カ 小ホールのパイプオルガンも、神奈川にとって自慢できるものだった。
- キ ミュージカル・演劇に特化してKAATがあるように、「オペラ」「オーケストラ付き合唱」「バレエ公演」といった総合舞台芸術のためのホールを建設してほしい。
- ク 県民ホールのロケーションは抜群であり、歴史文化の面でも優れた地である神奈川県から真の芸術と神奈川の歴史伝統を世界に発信できるような、最高のホールと評価してもらえるような特徴あるホールを期待する。
- ケ 数多くの楽屋、広い舞台裏、教会の響きを彷彿とさせるような音響効果、パイプオルガンの設置、エレベーターやエスカレーターの設置など、ご検討いただきたい。
- コ 100周年に向けて、神奈川から最先端の文化と上質な芸術を発信できる環境を作り上げることが大切である。設備のみならず、人的措置も重要であり、それらを神奈川県民に還元してゆくことが、文化発展における最重要課題だと考える。

## (2) バレエ団ヒアリング（令和7年8月10日実施）

- ア 民間が劇場を作るのは難しい。足りないのはオペラ・バレエ公演ができる劇場。県民ホールが休館し、東京文化会館も改修に入ると、オペラ・バレエ公演ができるところがなくなる。
- イ 様々な機能を詰め込みすぎず、大ホールを主として考えてほしい。もし、サブホールを作るのであれば、大ホールとの複合的な使用の可能性を考慮してほしい。また、ギャラリーは別の敷地に持っていけば良いのではないか。
- ウ 横浜市のまちづくりと調整しながら再整備を進めるとのことだが、そのせいでホールの再開が遅れるのは避けてほしい。
- エ オペラ・バレエができる劇場にするには次のような諸条件を踏まえることが必要。
  - ・ 搬入口と舞台を同一レベルにすること。
  - ・ 主舞台エリアに匹敵する、転換や格納に使用可能な舞台エリア。
  - ・ 舞台の主要エリアと同等の広さのリハーサル室。
  - ・ 重量物の設置を考慮した吊物バトンやスノコの作業性の向上。
  - ・ 舞台機構はシンプルで自由度が高い構造にすること。
  - ・ 搬入口から舞台、楽屋、リハーサル室等へのアクセスが容易であること。楽屋エリアが複数層に渡る場合は、衣裳資材等を移動できるエレベーターの設置。

- ・ 搬入口は少なくとも大型トラック 2 台が同時使用できること。できれば 40 フィートコンテナ（ハイルーフ）を搬入口につけられること。
- オ オペラやバレエで劇場を使用する場合、まとまった期間借りる必要がある。公立ホールだと学校行事などで借りられない場合があるので、別の運用にできないか。
- カ 労働基準法の改正により、深夜に作業をするということができなくなり、より日数が必要になっている。午前、午後、夜間という貸出枠でなく、時間単位にできないか。
- キ オケピ・客席だけを舞台を利用する団体とは別の団体に貸すなど、空間的なシェアも考えられる。（緞帳を下ろして、前舞台だけを別団体に利用していただく）
- ク 頓挫した横浜市の新劇場計画の情報を、神奈川県と共有してほしい。

(3) 舞台監督ヒアリング（令和 7 年 8 月 14 日実施）

- ア 県民ホールは舞台床が集成材で釘打ち禁止になっているので自由度が低い。袖は合板にして、張り替えられるようにすればよい。
- イ バルコニー席（複層階の席）はどここの劇場でもあるが舞台の全域を見渡すことはできない。設計時には客席から舞台がどの程度見えればよいかという検討基準があるが、2,000 席で全席見切れがない席を作るとするのは難しい。見切れがあったり手すりや邪魔になったりする場合は、最初からチケット代を安く設定するなどの対策がある。
- ウ 舞台及び客席の空調をどうするかも大きな問題。大体は客席と舞台で 2 つに分ける。新国立劇場はオーケストラピットにも個別の空調設備があり便利。オーケストラピットで一番問題なのは湿度。60%を超えると音の響きに影響があり NG なので、50%まで下げるために除湿空調を行うと客席が寒くなりすぎる。夏は観客自体が湿気を持ってくる。空調は建築時に考えないと後から変えられない。また、スモークも今は 4 種類くらい（の液剤）を使っているが、空調と湿気によって煙が上がっていかないことがある。
- エ オーケストラピットは何㎡とれるか。常設の脇花道を作らなければ、オーケストラピットを広くとることができる。びわ湖ホールが 75 ㎡程度だったと思うが、ワーグナーなど大型のものをやるときは狭い。新国立劇場は 140 ㎡。80 ㎡あれば二管編成が入る。ただしオーケストラ迫への乗込階段があると演奏面として使える面積が狭くなる。
- オ 譜面が今からはみんなタブレットになってきている。タブレットになるならば譜面灯はいらなくなる。そうなる今より電源は少なくてもよくなるかもしれない。ただし、タブレットの輝度調整が必要になる可能性がある。
- カ 各座席に字幕用のタブレットがあると画期的だと思う。
- キ 映像の機械はどんどん新しくなっていく。高価なプロジェクターを劇場が持っていたとしても、業者をいれなければ使えないのであれば意味がない。貸館は持ち込みでよい。
- ク 舞台機構は躯体にかかる重量が違うので、巻取り式がよい。
- ケ 舞台の床面は黒くしておいたほうがよい。舞台床を白くしたいのであれば、音響反射板の中の床に白い合板を敷いたほうが効率的。

- コ 舞台の迫りは仮設でもいいが、舞台面に開口部を設けることは必要。兵庫県立芸術文化センターでは道具迫りも舞台の演出迫りとして使っている。迫りを使うかはわからないが、道具迫りや切穴を公演で使うかどうかは演出家が考えること。切穴の位置はセンター、上手、下手の3か所にあるとよい。また後ろにもあれば、そこから登退場することもできるし、そこを使ってできる表現がある。
- サ 引越し公演しかなければ演出迫りは必要ない。なぜなら、その演目に必要な場所に迫りがあるとは限らないから。先方も演出でできること、できないことを考えた上で引越し公演を計画する。
- シ レポートリー制ではない劇場であればポータルタワーも不要。オペラを上演するにはポータルが必要という考え方はもう古いと思う。今はムービングの灯体があるので照明ブリッジも必要ないかもしれない。もし照明ブリッジを作るならば、取付・取り外しができるものであればよい。
- ス オペラについて、劇場としてどのレベルのものを創るのか。貸劇場だけならば全部機材は持ち込みで空間があればよい。オペラは入場料では採算が合わないが、兵庫県立芸術文化センターでも劇場の顔としてオペラ事業をやっている。オペラを上演することで全国から人が来るため、それがシティセールスになっている。
- セ オペラはP Aを使わないのが前提だったが、最近はP Aをいれることもある。変わってきているのは確か。
- ソ 昔は夜通し仕込みなどをしていたが、今は働き方改革での深夜作業が難しくなっているが、照明スタッフのみ残して深夜作業を行うなどはしている。
- タ 照明について、ハロゲンからLED、ムービングになる。もうそういう時期が来ている。照明家は考えが古い人が多い。今まで通りの凸レンズでよいと考えている。また演劇の人はムービングは高価というイメージがあるのではないか。照明のあり方も変わってきており、今は前灯りを使わないデザインもでてきている。
- チ 今は映像を専門に扱う部門がない。照明がやるか音響がやるか。電源を取るのは照明だが、コンピューターは弱電だから音響の担当になる。また、仕込みができる人はいるが、映像を作れる人がいない。
- ツ 新国立劇場は客席につけるタブレットの電源は用意してあるが使っていない。韓国のセゾン劇場は客席字幕がついているが、黒い画面に白字なので明るさの問題は起きていない。これからは客席の字幕が標準設備にならないとダメだと思う。公演や館内レストランの情報や緊急速報も流せる。
- テ 今は若いスタッフに技術を教える人がいないのが現状。
- ト 劇場のファンクラブを作ったほうがよい。兵庫県立芸術文化センターの開館時は、ゲネプロへの招待やバックステージツアーなので7万人の情報が集まった。当時は郵送でのDMだったので一世帯で1通にして送料を節約したが、今は電子媒体にして情報が流せるようになった。

ナ 今は芸術監督という職が形骸化しており、何の役割かわからなくなっている。予算があるのか人事権があるのか。芸術監督の職能の範囲を明確にすることが大事。

(4) 公益財団法人横浜市観光協会ヒアリング（令和7年8月15日実施）

- ア アーティストのコンサートを実施している場所なので、観光地としての認識はなく、周辺地域への波及効果について、県民ホールにダイレクトに向かいそのまま帰るイメージなので特に地域と連携しているイメージはない。
- イ 2,000人規模の会場は少なく他の会場と棲み分け出来ていると思う。価格帯も他の施設と違って利用しやすいが、MICE（国際会議）の会場として利用日の3～4年前に予約しようとしたが、予約できなかったことが何度かあった。国際会議だと利用の3～4年前から動き出す必要がある。
- ウ 800～1,000規模のホールも需要はあると思うが、1,000規模だと価格帯は異なるがパシフィコがある。学会利用の方に聞かれた際は、産貿ホール“マリネリア”や“ワークピア”などを紹介している。
- エ 山下公園通りは有力コンテンツだが、公園なのでお金は落ちない。そのような中でカフェがあると滞在時間も伸び、お金が落ちると思う。英一番館は一面ガラス張りでそこからの景色がとてもよかった。ユニークベニューとしてこのロケーションを生かしたパーティー等を組むことができるとよい。昼はレストラン、夜は団体利用ができるとよい。
- オ 屋上庭園などがあり、そこで何かできればよい。外に喫茶店のテラス席を用意すると外国人も来やすいと思う。夜もやってくれるとありがたい。
- カ キッチンカーを呼んだりイベントスペースとして利用できるのであれば、広場的空間はあった方がよい。
- キ 興行主が広報を行う際に、周辺ホテルを紹介すれば、街とつながってくると思う。
- ク 訪日外国人が来たいと思う施設としては、外国語対応は必要。MICEで来訪している外国人は1週間くらい滞在するので、インターネットや現地で当日でも簡単に予約できるようになっていると、案内しやすい。
- ケ 観光協会が運営している観光サイトがあるのでそこでも紹介できる。バックヤードツアーをやっていただくとツアーとして紹介しやすい。海外の音楽堂だと最後にミニコンサートつけるなどがある。
- コ 在住外国人の場合、求められるものは日本人とあまり変わらないかもしれない。言葉の障壁があるので多言語対応は必要だと思う。
- サ 今横浜に一番訪れているのはアメリカ・中国が多く、全体の半分を占める。次いで台湾・韓国。当協会のホームページは、英語が一番閲覧されている。次いで繁体字。中国は自国のサイトで検索することが多いので、SNS（Weibo）での広報に力を入れている。

(5) 公益財団法人東京二期会ヒアリング（令和7年8月15日実施）

- ア 昨今の改修や建替え等によりオペラ公演を行うことができる劇場が少なくなっている。
- イ 県民ホールとは、2008年から9年間、びわ湖ホールを含めた共同制作で一緒にオペラ公演を行っていた。また、札幌文化芸術劇場 hitaru のこけら落としでも共同制作を行った。他にも、県民ホールの買取公演としてオペラ公演を行ったことがある。
- ウ 座席数は、ポピュラーな演目も行うことを前提とすれば2,500席、少なくとも2,300席程度あるとよい。オペラを上演するならば2,000席以上は興行をするために必要で、PAを入れる公演もあるが、生の歌声を客席に届けるオペラ公演には2,500席が限界と思われる。
- エ 立見席（座席付き）を設けるのは選択肢として検討できるかもしれない。音は上にいくので上階でも聴こえる。ウィーンで立見が成立しているのは、正面の抜群に見える場所や、オーケストラピットが見える席（2, 3階）が立見席となっているから。利用者は、安いから立見を選択する人だけでなく、その席から観たいから立見という方法を選択しているのだとも思われる。
- オ 国立劇場の建替えが終われば、次に新国立劇場が改修に入るかもしれない。その時にオペラが実施できる場所として神奈川県民ホールが開館していると非常に有効だと思う。新国立劇場の改修と県民ホールのオープン時期を合わせていただけるとありがたい。
- カ 海外と協働する公演では、コンテナで運んでくることがあるので、直にハイキューブのコンテナごと搬出入できるとよい。
- キ コンサートを行うときのために音響反響板は必要。
- ク 東京文化会館が重用されているのは音響がよいから。2,300席あるが5階席でもオーケストラも含めよいバランスで聴こえる。新しい県民ホールも音響が素晴らしいものになれば、敢えて使いたいということになる。
- ケ 連日入れ替え制でレパートリー公演を行う場合は4面舞台が必要になるが、そうでなければ4面舞台は不要。本舞台は現在の大きさで、上手か下手どちらかに本舞台と同じ大きさの舞台袖があるとよい。オペラとコンサートを同時期にやる場合に、舞台セットをそのまま袖舞台に逃がすことができる。また、奥舞台からのリアプロジェクションはできたほうがよい。
- コ 迫りはあまり使わないが、全くないと例えば舞台上のものを消す、階段を下りていくなどの演出ができなくなるので、どこかにはあった方がよい。
- サ 楽屋は増やした方がよい。大きなものよりは室数がほしい。出演者が集中しコンディションを整えるための空間が必要。数がないと主要な役同士が同じ部屋になってしまう。
- シ 小ホールは、歌手のリサイタルでの需要はあるかもしれない。東京文化会館の小ホールの席数（約650席）と音響は、リサイタルにちょうどよい。また東京文化会館自体が主催公演でも使っている。
- ス 近年映像技術は発達しているが、オペラは映像だけで上演するという事はないだろう。また映像製作費も高い。映像と実際の美術を組み合わせる表現になる。特にオペラは歌手

の声を反射させたいので舞台美術が必要。プロジェクターなど機材の発展が日進月歩なので持ち込みを想定してよい。

- セ バリアフリーについて、エレベーターがあり、入口から客席まで車椅子で移動できるのが理想。ヒアリングループなどの設備は、劇団で準備するのは大変なので、劇場側で備えてあるとよい。海外では座席で字幕がみられるタブレットがあるが、それは複数の言語に対応する必要があるため。
- ソ 「そこに行けば劇場で何が行われるか分かりチケットが買える」場所があるとよい。主催事業、貸館公演の区別なく広報し劇場を盛り立てていければよい。
- タ 劇場に入ったときに素敵な空間だ、と感じられるホワイエ（ロビー）があるとよい。

(6) 公益財団法人神奈川芸術文化財団ヒアリング（令和7年8月15日実施）

※ 第4回委員会の資料2を受けてのご意見

- ア ホール2をアートの展示と共用するのは想像しにくいですが、ギャラリーが実演芸術の会場にもなるということは想像できる。これまで、県民ホールのギャラリーでは演劇やダンス、音楽の公演を一柳芸術総監督の強い意志もあり行ってきた。劇場的な利用に適した設備があったわけではないが、仮設を組み、それを面白がれるコンテンツを行なっていた。
- イ 新ホールとKAATを一体的な運営で考えたときに、ホール2は、新ホール1やKAATホールでは上演の真価を示せないジャンルや演目に相応しく、それらを補完する施設として大いに機能すると考える。
- ウ ギャラリーで舞台芸術を行う上で足りなかったのは楽屋機能。また、防音は考えた方がよい。特に打楽器系は振動が伝わる。ギャラリーで舞台芸術もする際には、音漏れの問題で小ホールや場合によって会議室まで貸せなかった。さらに、下のギャラリーは照明が吊れない、電源を取れない、椅子の設置が難しいなどの問題があったり、空調の音が突然鳴ったりするので、音楽をやるときには特に気を遣わねばならなかった。
- エ 壁はデフォルトを美術ギャラリーとして使うなら白い壁だし、音楽ならばフラッターがおきない壁、演劇が主ならフラッターがおきない黒い壁を選ぶことになるだろうが、いずれの場合でも、様々な用途に可変して使うのは概ね可能だと思う。
- オ ギャラリーのうち一つは収納型の客席機構を備えることも考えられるし、スチールデッキや平台などで都度必要な段床を組んで客席を作ることも考えられる。都度組み立てるのは手間を考えると不利に感じるが、上演のジャンルにより客席の幅や高さ、位置を合わせて設営を行えるという利点はある。
- カ ギャラリーの搬入口など共用部は知恵を絞って考えないとならない。会場は別であってもある機能が共有されていたら使えないという場合もある。
- キ 何よりも物と人のルートをよく考えるべき。KAATは、各施設の楽屋導線が重複していることや倉庫の不足から、楽屋のセキュリティレベルの管理や物品の施設間移動など、煩雑な運営を必要とする劇場になっている。

- ク 今の県民ホールギャラリーで独立しているのは第1展示室（144.9㎡）だけ。第1展示室だけを借りたいという人は多く需要があった。
- ケ ギャラリーは、本来は展示室毎に独立していた方がよいと思うが、県民ホールの場合、第5展示室の周りに散りばめられて繋がっているのが特徴的であり、それにより色々な現代アートができた部分もあると思う。動線としては、どこかのギャラリーを通過せねばいけなかったが、皆さんそれは承知で借りていた。展示はほぼ無料のものだったので、隣を見る機会があると利点として捉えていた。ただし有料の展示では難しい。また搬入の日程がずれると他の展示中の展示室の中を突っ切って搬入することになり、問題になったこともある。
- コ ギャラリーはあまり大きいと貸しにくい。利用は必ずしも大きい展示だけではなく、1,000㎡もの展示スペースを使うのは、限られた作家でないと難しい。また簡易壁で区切ったとしても、KAATの中スタジオ及び小スタジオは、一体の施設を簡易壁で隔てて個別に使用できる仕様だが、防音の問題などあり、別々の団体が入ることはほとんどない。個別のスペースを有機的に繋げられる仕様も検討すべき。
- サ 施設に必ずカフェやレストランが入ると思われるが、今は目的外使用になっており劇場の運営とは別になっている。劇場法制定以降の社会で文化施設を考えたときに、カフェやレストランが切り離されているのは強い違和感があり、劇場施設の一部として運営されるべき。複数あるとすれば、一つのカフェにはギャラリー機能を持たせるのもよいと思う。
- シ ドアもぎりについて、オープンシアターの時は4か所でドアもぎりにしていた。
- ス ドアもぎりについては、どこまでをパブリックスペースにするかという問題でもある。位置の工夫により任意にセキュリティエリアの境を設けることで、空間を分けることもできる。イギリスのナショナルシアターでは、パブリックスペースを広く取り、（複数の飲食店、ショップなどを設置することで、）観劇の有無に関係なく常に多くの人々が集う、賑わいの創出につなげている。
- セ オペレーションと経費の問題がある。KAATの場合は、20以上のドアがあり、ドアを開け閉めするオペレーションは意外と大変なので、手前にセキュリティエリアの境を設けている。また、運営の手間の以外にも、ホワイエでの物販をする場合は、セキュリティエリアで区切る必要がある。
- ソ 電子チケットが主流になればドアもぎりが簡単になるが、ドアの数だけ人が要ると思われ、KAATでは現在ホールで案内スタッフが14人程度ついているが、ドアもぎりにすると2倍の人数が必要になるだろう。
- タ 運営面では執務室や会議スペースが十分必要。人材の育成・活用の面からも労働環境という趣旨でもスペースを求める。
- チ 練習室等の一般貸出を想定するなら、同日のプロ利用との動線を分けられるようにしなければならないと考える。

(7) 国立新美術館ヒアリング（令和7年8月25日実施）

- ア 昭和の時代から県民ホールは横浜市民ギャラリーと並んで、若手作家の作品を発表するなど、新しい美術を東京に先駆けて行っていた印象がある。近年は、県民ホールギャラリーの天井高のある空間を上手く活かしたダイナミックな展示を実施していた。
- イ ギャラリーは、新しい美術の多様な表現も展示できるような、汎用性のあるニュートラルな空間がよいと思う。
- ウ 映像は不可欠になっている。水戸芸術館のように壁の後ろに空間があると、プロジェクターを壁面にかけた時にケーブルなどを収納できスッキリさせることができる。また、重量物を掲示する際にも使い勝手がよい。
- エ 県民ホールのギャラリーであれば、バレエ衣装の展示やオペラの先進的な舞台装置デザインの展示など、相乗効果が出ると思う。音を出すような作品は、小ホールで関連企画などをすればいいのではないか。
- オ これからは、貸館も含め収支バランスも考えるべき。
- カ 地域活性化の相乗効果を考えないといけない。ただ、横浜の場合は東京からの集客を考えると開館時間を7時ぐらいに遅らせる必要があるため、9時過ぎに公演が終わった時には中華街があまり開いていないと聞いたことがある。
- キ バレエはバレエ人口が多いので需要はあると思うが、オペラはチケット代が高い。ヨーロッパの公演だと高くても買うと思うが、日本の団体の場合はどうだろうか。
- ク 公共の文化施設には文化を育てる使命があり、収入につながらないものもやる必要がある。公金がないと運営できない。今後独自財源などを確保していくためには、非営利の公的な活動をよく理解し、経営・収入の確保を戦略的に考えることができるような人材が必要。
- ケ 美術品を借用する場合は、貸す側はファシリティレポートを見て空調や温湿度管理、警備体制などの条件をチェックする。海外では、展示室の消火設備は、人命優先でスプリンクラーが多い。今まで日本はハロゲンガスが多かったが、ギャラリー空間の消火設備については現在の状況をよく調べた方がよい。
- コ ギャラリーの広さについては、これまでの県民利用の状況を確認した方がよい。150㎡の利用が多いのであれば、300㎡の部屋を二つに区画できるようにすれば良いのではないか。500, 400, 300㎡のギャラリーは状況に応じた活用を検討できる。
- サ 高さが全てに8mある必要はないのではないか。8mはかなり高く、照明の設置やメンテナンスも大変になる。部屋ごとに高さは変えても良いのではないか。

(8) 新国立劇場技術部ヒアリング（令和7年8月26日実施）

- ア 新国立劇場と同じような映像セクション持っているのは聞いたことがないが、昨今は公演のジャンルを問わず映像の使用が増えてきたので、これからの劇場やホールは、映像技術を専門的に理解している人がいた方がよいと思う。

- イ 新国立劇所映像係は元々、収録・編集を行い公演記録映像を作成のための部署だったが、プロジェクトなどの映像送山の業務も大変多く行っている。また、貸館の際、外部の収録業者や送山の映像業者の対応も行っている。映像セクションは、職員4名でまわしているが、映像送山の仕事が増えており足りてはいない。
- ウ 公演記録を作成するための設備である録画編集室は、外部には貸していない。編集機器は古い方式で専門性が高いため、編集の際は委託業者ではなく職員が操作する。
- エ 主催公演のほぼすべての演目を収録している。
- オ 舞台において映像の仕事は、プロジェクトなどの映像送山と、収録・配信などがあるが、それぞれ専門性が高いため、場合によっては、担当部署を分けることを考えたほうがよいかもしれない。
- カ 配信は、後日であれば、編集したものを配信用にデータにして担当部署に渡す。ライブ配信は、配信業者が劇場のインターネット回線を使用して行う。
- キ 映像モニター設備はSDIなど遅延が少ないシステムにしないと、モニター上の指揮者の動きと音が合わなくなる。
- ク 新国立劇場では記録用も定点ではなくカット割り（台本作成）している。台本は稽古を見ながら作る。短いオペラで50ページ・500カット。（長いと100ページ・1,000カット）
- ケ 舞台収録は撮影機材にとっては過酷な環境。暗いシーンでも映像がきちんと撮れるような高性能な機材が望ましい。
- コ ただの記録ではなく、配信したり販売したりするクオリティの映像を撮るためには、高倍率のレンズとカメラマンは最低3名必要だと思う。スペシャルのときは、機材とカメラマンを増やして4名や5名の体制にする場合もある。
- サ VRは面白いとは思ってない。VRの映像は、視聴のためにVR機器が必要なので汎用性がない。VRはゲームやアミューズメントなど他ジャンルの方が生かせるのではないか。
- シ 機材は、数年経つと新しいものが出てくる。15年後くらいにはメーカーのサービスが終了し、修理も難しくなる。そこを念頭においてほしい。また、プロジェクターは、現在、2K解像度での投影がオーソドックスだが、解像度が4K以上になると、コンピューターなど出力する機器にパワーが必要だったり、回線の伝送性能も高くないと難しい。
- ス オペラ公演でのプロジェクトなどの、映像を利用した演出はこれからも増えていくと思う。新作に関しては映像を活用している作品は7～8割。
- セ 貸し劇場公演で外部事業者がプロジェクトを担った場合、事業者は映像信号や通信のケーブルを自分たちで引くことが多いので、ケーブルのルートを確保する通路や小扉を予め作っておくと対応の際便利。
- ソ 所持機材、持込機材ともに、電源設備は必ず必要。最近200Vのプロジェクターが当たり前になっている。LAN回線があれば便利。映像信号の回線をつくる場合は、用途やその時以降の主流を考える必要がある。

- タ リアプロジェクションは投影面から 15m くらい離してプロジェクターを設置している。レンズの画角によりプロジェクターの設置場所は変わる。
- チ 新国ではリアプロジェクションの使用率はとても高い。また、海外からの引っ越し公演でもリアプロジェクションを使用することが多いと思う。

(9) 横浜商工会議所ヒアリング（令和 7 年 8 月 27 日実施）

- ア 再整備される神奈川県立県民ホール本館の機能については、従来の機能を維持しつつ、本格的なオペラにも対応できる最新鋭の施設として再整備していただきたい。
- イ 神奈川県立県民ホール本館の立地場所については、現在の地点での建替えに加え、利便性や経済波及効果などを十分に考慮し、横浜都心臨海部の新港地区や山下ふ頭地区などの多様な地点での整備を含めて検討していただきたい。
- ウ 新たな神奈川県立県民ホール本館のデザインについては、横浜港に隣接するという立地を考慮して港からの景観にも配慮しつつ、横浜・神奈川を代表するシンボリックなデザインとしていただきたい。
- エ 横浜市が策定した「山下公園通り周辺地区まちづくりビジョン（素案）」では、山下町 1 番地から 3 番地にかけては、山下ふ頭や関内・関外地区、みなとみらい 21 地区などの水際線の各地区をつなぎ、来街者を迎え入れる玄関口となる“西の結節点”に位置付けられている。

しかし、同地区に立地するシルクセンター（1 番地）は 1959 年に、産業貿易センタービル（2 番地）は、神奈川県立県民ホール本館（3 番地）と同じ 1975 年に建設され、既に 50 年以上が経過して老朽化が進んでいることから、隣接する建物の再整備計画を把握して当該地権者との連携を図りながら再整備を進めていただきたい。

### 3 県民意見

(1) みんなでつくる県民ホールアイデア箱等（一部体裁を修正）

（令和 7 年 6 月 18 日から実施中、令和 7 年 10 月 31 日まで）

- ア 県民ホールのギャラリーは、美術、工芸等、芸術作品を展示する貴重な場所になっていました。現在、高等学校では作品を展示することができず、大変困っています。是非、素晴らしいスペースを作ってください。切にお願い致します。（平塚市、50 代、男性）
- イ 今までの県民ホールは、出演者にとっては最悪であった。リハーサル室は階段を上らねば入れず、非常に狭いため本番通りの動きは到底できない。
- また、楽屋は何階にも渡って設けられているのに、トイレは地下に 2 カ所、個室は各 1 室だけ。ベートーヴェンの第九や出演者の多いオペラ、バレエなどの時はどうしていたのだろうか。出演者は排泄などしないと思われていたのであろうか。客が入る前なら客用トイレ



※ ワードクラウドとは、テキストデータ内の単語の出現頻度に応じて、文字の大きさを変えて表示する視覚的な表現方法のこと。

#### AI (Chat GPT) による要約文

この文章は、新しい県民ホールに対する要望や期待を述べた意見集です。以下に重要なポイントを要約します。

1. **\*\*多様な音楽ジャンルの採用\*\*:**

「クラシックからお笑いまで、幅広いジャンルを採用していただきたい。」という要望があり、様々な音楽や芸術のイベントが求められています。

2. **\*\*バリアフリーと設備の充実\*\*:**

「バリアフリーとして大きめのエレベータの設置」や「トイレ数を多くして欲しい」といった、利用者が快適に過ごせるための設備改善が強調されています。

3. **\*\*音楽と芸術の特化\*\*:**

「山下公園の立地を生かし、音楽や芸術を生かす様に特化すべき」との意見があり、地域の文化を活かしたプログラムが期待されています。

4. **\*\*パイプオルガンの存続\*\*:**

「パイプオルガンを残してほしい」という意見が繰り返し出ており、オルガンの設置が重要視されています。

5. **\*\*地域貢献とコミュニティの場\*\*:**

「県民のコミュニケーションの場として身近なホールとなっていきたい」との要望があり、地域の文化活動や交流の場としての役割が期待されています。

これらの要望は、県民ホールが地域の文化を支える重要な施設であることを示しており、利用者のニーズに応えることが求められています。

#### AI (Chat GPT) による箇条書きでの要約

- パイプオルガン演奏楽しみにしています。
- 現在のパイプオルガンを設置してほしい。
- バリアフリーで移動しやすくしてほしい。
- 音響の良いホールをお願いします。
- 見学、体験イベントがあるとよい。
- トイレ数を多くして欲しい。
- 明るいホールにしてほしい。



「音響がよいこと。」や「音の響き方に期待。」といった意見が多く、音質の向上が強く望まれています。

3. **\*\*バリアフリー対応\*\*:**

「車いす席や、呼吸器をつけていても鑑賞できる席」や「バリアフリー」といった要望があり、すべての人が利用しやすい環境が求められています。

4. **\*\*子ども向けの施設\*\*:**

「子どもが楽しめるようにする。子どもが安価で利用できるようにする。」や「子ども対策として「キッズルーム」がほしい。」といった意見があり、ファミリー層への配慮が必要とされています。

5. **\*\*トイレの充実\*\*:**

「トイレの数が増えること。」や「女性用のトイレを増やしてほしいです。」といった具体的な要望が多く、トイレの数や質の向上が求められています。

全体として、利用者は快適でアクセスしやすい音楽ホールを期待しており、特に音響や座席の質、バリアフリー対応、子ども向けの施設、トイレの充実が重要視されています。

AI (Chat GPT) による箇条書きでの要約

- トイレが多いとよい。
- 座席の質を良くしてほしい。
- 親子室があるとよい。
- 音響に期待する。
- 客席の間を広くゆったりとさせてほしい。
- 大きなホールにしてほしい。